

トーベ・ヤンソン著 山室 静 訳
「ムーミン谷の冬」TROLLVINTER
ムーミン全集 [新版] 5 全9巻 講談社 (2020)

タイトルを見て、もう春なのに「冬？」と思われたかもしれませんが、このムーミンシリーズの第5巻は、1月から4月に春を迎えるところまでを描いています。大人にとっても、生き抜く上で大切なことを教えてくれる作品で、コロナ禍にある今こそ読みたい1冊です。

お話は、ムーミン一家が冬眠する中で、1人だけ目を覚ましてしまったムーミンが、初めての暗くて長い冬を体験するというもので、不安と孤独で一杯だったムーミンが、今まで出会ったことのない不思議な生き物達との出会いや交流を通して、体験を重ね、冬を乗り越えて、春を迎えるというストーリーになっています。

ムーミン以外にはもう1人、「ちびのミイ」も起こされてしまうのですが、いつも勇敢で、現実的なミイは、はじめての冬でも恐れず、雪の上を滑ったり、いろいろな道具を使って、スケートをしたり、自分でやれることを見つけては冬を存分に楽しめます。夏がどんなに良かったか懐かしんで、寂しがらるムーミンが、「・・・ねえ、ひどいんだよ、なんだかみんな変わっちゃって、さびしくてさ・・・おぼえてるかい、夏にはさ・・・」と話し出すと、ミイは「だけと、今は冬よ」と言って、ピシヤリと現実に戻ります。また、ムーミンが、水浴び小屋の冬の住人・トゥーティッキ（おしゃまさん）に対して、なぜ冬の間にも慰めの言葉をかけてくれなかったのか、と尋ねる場面では、

「どんなことでも、自分で見つけださなきゃいけないものよ。そうして、自分ひとりでそれを乗り越えるんだわ」と答えます。

何気ない会話の中に、人間にとって大切な、まさに“名言”が散りばめられています。登場人物が置かれている状況は、先が見えず、不安やイライラ、孤独を抱えてコロナ時代を生きる私達と重なりますし、その中で生き抜いていくヒントや希望を与えてくれます。解説（フィンランド文学研究者の高橋静男氏）にあるように、ムーミンは決して乗り越えようと思って乗り越えたのではなく、不安で一杯になりながらも、周囲の謎めいた生き物達を拒絶せず、関心を持ち続け、交流していくうちに、結果的に冬を乗り越えてしまったのです。これから新生活を始める人や引き続きコロナで忍耐の日々を送る皆にお勧めの1冊です。

学生相談室カウンセラー 日浅 美由紀

